

釧路森林資源活用円卓会議活動報告 ～くしろ木づなプロジェクトのこれまでとこれから～

釧路市産業振興部農林課 課長補佐 板垣達也

URL <http://www.city.kushiro.lg.jp/sangyou/nourin/ringyou/tiiki/entak26.html>



1. 釧路森林資源活用円卓会議の成り立ち

一般的には水産・炭鉱・製紙工場のまちとして知られる釧路市ですが、平成17年の阿寒町・音別町との市町村合併以来、広大な森林が所在する「森林都市」となりました。また、後背地の消費人口もあわせ北海道の拠点都市ともなっています。

	市町村名	森林面積 (ha)
1	遠軽町	117,238
2	足寄町	116,395
3	釧路市	100,703

平成24年度北海道林業統計より



晩秋の釧路市有林

釧路市では域内循環を市政の大きな柱とし、平成21年4月に域内循環、地域経済円卓会議設置を理念に据えた中小企業振興条例を施行し、地域資源の見直しと活用促進を重要な課題としました。また、国内でも公共建築物等の木材利用促進に関する法律が施行され、森林整備加速化・林業再生事業がスタートするなど森林資源の循環利用のより一層の推進に向けた機運が高まりつつありました。

そこで当市の重要な資源である森林資源を改めて見直したところ、市有林をはじめとした一般民有林の多

くが戦後造林されたカラマツ・トドマツであり、利用可能な40年生から50年生に集中していること。また若齢人工林資源に乏しく、長期的な視点にたつての伐採・造林が必要であることがわかりました。

このような釧路市内の豊富な森林資源を活用するために、釧路の森林・木材に触れる様々な関係者が参画し「釧路森林資源活用円卓会議」（以降「円卓会議」）が平成22年11月に発足しました。参加したメンバーは、川上の造林・造材業から製材業、川下の設計・建築業やサービス業まで幅広い分野から多くの人材が集結しました。また、北海道釧路総合振興局林務課・森林室や根釧西部森林管理署がオブザーバとして参加しています。事務局は発足当初から釧路市産業振興部産業推進室が務め、その後農林課へと引き継がれています。

釧路工業技術センターで開催された、円卓会議の第1回会合では釧路市における森林資源の現状を再確認するとともに、蝦名釧路市長から林業・林産の活用モデルを構築するという目標が提示され、今日に至る取組の礎となっています。



第1回釧路森林資源活用円卓会議

2. くしろ木づなプロジェクトのこれまで

第1回会合において前述の方針の他、組織などについて決められました。大きな特徴としては次のとおりです。

- ・円卓会議の中に「川上部会」「川下部会」を置く
- ・規約等は特に設けない
- ・課題解決に向けた取組を「くしろ木づなプロジェクト」（以降「木づなプロジェクト」）とよぶ。また木づなプロジェクトは「もっと知る」「もっと使う」「もっと伝える」の3つの分類とする。

また、座長に丸善木材株式会社代表取締役鈴木不二男氏、副座長に釧路工業技術センター長綿貫幸宏氏、川上部会長に大澤木材株式会社代表取締役大澤友厚氏、川下部会長に株式会社長谷川建築設計事務所代表取締役長谷川渉氏が選任されました。

<第1期木づなプロジェクト>

発足から6年以上が経過し、当初の5年間を我々は便宜的に第1期活動と呼んでいます。第1期の特徴は、このように我々の周りに豊富に存在するカラマツを知り、使い、広く伝えるというものです。やや乱暴ですがカラマツの研究と普及に疾走した5年間といってもいいかもしれません。

<部会での取組>

豊富な資源量を持つ釧路のカラマツですが、身近な生活の中には使われていませんでした。北海道や道総研の研究により、建築用材等への使用に耐えることは林業・木材関係者は理解していましたが、市民への周知はまだ進んでいませんでした。そこで川上部会ではまずカラマツを中心とした人工林を知り、コストをかせぎ安定して用材を供給するための方法を模索し始め、川下部会では改めてカラマツの木材としての性質を知り、その良さを広めるとともに魅力的な商品作りを開始しました。

さらに、大人から子供まで地域材を知り、森林に親しむための木育イベントを開催し、活動全体の底上げを図ってきました。



H25低コスト森林施業と路網整備の検討会



ハイブリッドログハウス工法開発・試験



カラマツ構造材を活用した民間住宅見学会



カラマツカヌーも作ってしまいました



カラマツラッピングバス



H25釧路市動物園アルパカ舎



木育イベントの実施



市内小学校でのカラマツ製学童机・椅子

<釧路市役所の取組>

冒頭に釧路市内の森林面積は約100,000haと記しましたが、そのうち市有林は約5,000haであり、その多くは伐期を迎えたカラマツ人工林となっています。また、市役所では様々な公共建築物を新改築したり、庁内で用いる各種什器備品等を購入しています。

言い換えれば市は大口の供給者と消費者を兼ねており、地域材の利活用の拡大において先頭を走る役割を担っています。

円卓会議の活動の活性化、平成23年に策定した釧路市地域材利活用推進方針など、市役所内部でも地域材利活用への認知は進み、公共建築物の新改築の際はまず木造・木質化が可能かといった議論がなされるようになりました。また観光や教育といった各部門においても釧路のカラマツが様々な形で用いられるようになっています。



小学校における木育教室
※釧路市教育委員会・釧路総合振興局森林室共催

3. くしろ木づなフェスティバルの開催

発足5年目を迎えた平成26年度に、円卓会議、そして木づなプロジェクトの大きな節目となるイベント、「くしろ木づなフェスティバル」を開催しました。

平成26年5月に開催された円卓会議において、参加者から5年間の取組を広く市民に知ってもらいたいイベントを開きたいという意見が多くあり、予算も何もない中、会場探しから準備を始めました。

さまざまな紆余曲折を経て、平成26年10月25日から26日にかけて開催されたフェスは28の団体や企業の参加のもと、2千人強の来場者を集め盛況のもと終えることができました。

経験のない大型イベントであったため、閑散とした場内を想像し怯えていましたが、開場前にはすでに行列ができており関係者一同安堵しました。

会場内は各企業・団体の商品出展の他、ツリーハウスをはじめとする大小さまざまな木製遊具、実際に木と触れ合うことのできるブースを設け、大人から子供まで楽しめる内容であったと来場された方からのお言葉を頂きました。また、屋外駐車場では市街地では例を見ない高性能林業機械によるトドマツの伐倒実演を行いました。伐倒から玉切りまで、機械の動きに合わ

せ周囲からは驚きの喚声が上がりました。

このようなイベントの開催時は事務局が多くの役務を担いがちですが、本イベントに関しては円卓会議メンバーの情熱が大変盛んであり、それが成功の大きな要因であったと考えます。

円卓会議メンバー以外にも北海道庁や根釧西部森林管理署、道総研、北海道林業・木材産業対策協議会といった団体のご協力を頂いたことも大変力強いことでした。

また、イベント経費の多くを様々な団体や企業より協賛金という形でご協力いただき、賄わせていただきました。ご協力いただいた皆様に厚く御礼を申し上げます。



子どもたちに人気の木製遊具



高性能林業機械実演

4. くしろ木づなプロジェクトのこれから

平成27年から第2期を迎えた木づなプロジェクトですが、当初掲げた方針に大きな変化はありません。第1期5年間の取組を通じて見えた課題について検討を進めています。

私たちの取組は劇的な成果を上げているわけではありませんが、ゆっくり着実に釧路の森林、木材の普及PRをすすめています。木づなプロジェクトに参加する各企業や団体の方々の熱意がこの取組をここまで育ててきたと感じています。

これまで需要拡大を先行して進めてきた木づなプロジェクトですが、そこで得た果実をいかに森林に還元するか。これこそが今後最大の課題だと思っています。

簡単なことではありませんがくしろの森林や林業に関わる人々と手を携えて進んでいきたいと考えています。

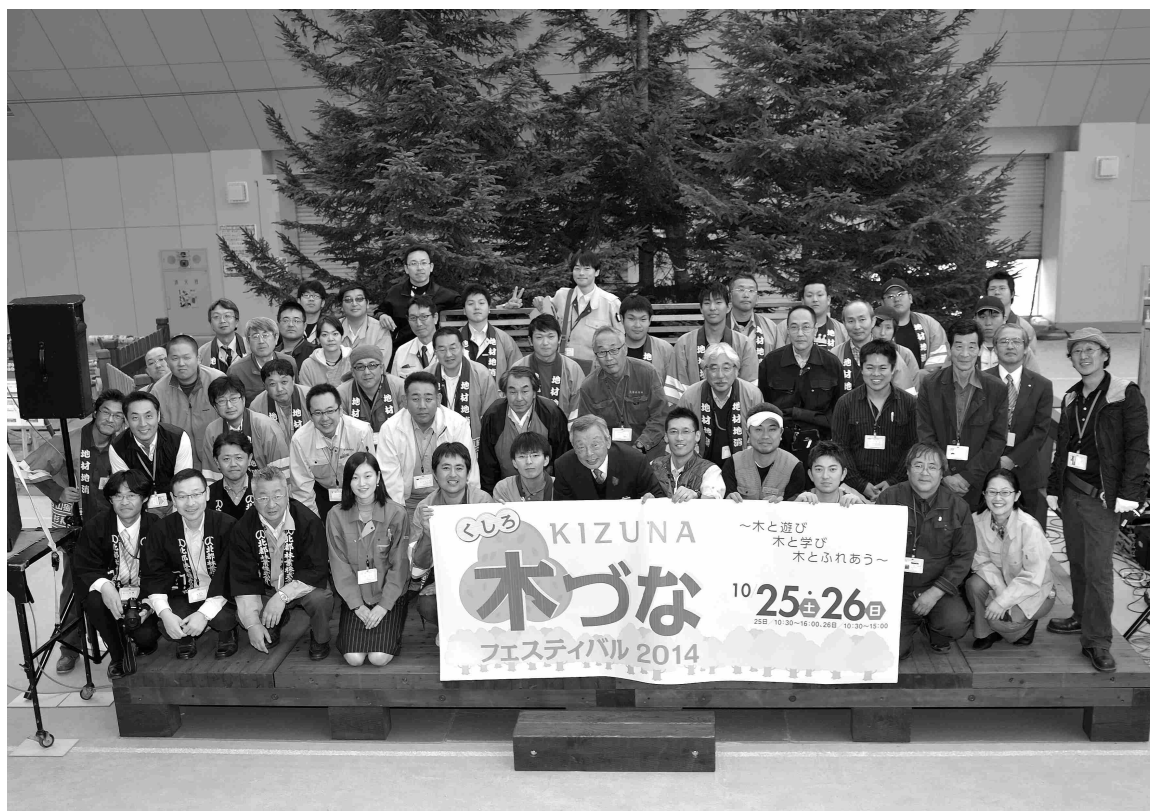
最後に釧路の「木づな」を生み、育て、繋いできた皆様に感謝を申し上げ、釧路森林資源活用円卓会議の活動報告といたします。



カラマツ製ネームホルダー
※札幌ベニヤ株式会社恋問工場製作



カラマツ製ちいさな木の家キット
※有限会社しまや染色製作



くしろ木づなフェスティバル終了後の集合写真